浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

第332号
平成23年6月

電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
choonji@aichi.email.ne.jp
http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/　ナモの寺 検索
〒456-0034　名古屋市熱田区伝馬一丁 10-11

法然上人曰わく
炎は空に上り
水は下りさまに流る
果物に
酸っぱいものあり
甘いものあり
これ
それぞれに具わった
自然の道理であると

われもまた
人と生まれ
弥陀に生かされ
今を生き
そして
命果つれば
弥陀のお迎えを待つ
これ
法爾の道理であると
努々疑うことなかれ

自然法爾

わが**浄土宗**を開かれたのは、**法然上人**であります。日本を代表する宗教家の一人として、中学校の教科書にも出てきますから、知らない人はないくらい有名な方でありますが、正しくは、**法然房源空**といいます。そしてこのたび、八百回大遠忌にあたり諡として、今上天皇より**法爾**という大師号を賜りました。

この大師号というのは、徳の高い高僧に朝廷から贈られる諡号で、よく知られているのは、**空海**の**弘法大師**、**最澄**の**伝教大師**でありますが、法然上人の場合、これまでに、**円光**・**東漸**・**慧成**・**弘覚**・**慈教**・**明照**・**和順**、そして今回、**法爾**と、実に八つもの大師号を賜ったということになり、このようなお方は、他にはいらっしゃいません。黄檗宗の**隠元**も真空・華光という複数の大師号をもっておられますが、それでも二つです。そのようなことを考えますと、我が身のことではありませんが、誇らしく、ありがたいことであります

さて、**法爾**ということばの由来は、**自然法爾**あるいは**法爾自然**からきています。実は、**法然**というお名前もその由来は同じです。辞書的な説明では、「事物（法）が作為を越えて、本来、自然に存することをいう」となりますが、なかなかとらえどころの難しいことばであります。

類似のことばに、**法爾道理**、**法然道理**、**法性自爾**といったことばもあります。**自爾**は、『**荘子**』に多く見える語ということで、元来は、**道教**に由来することばのようです。

法然上人ご存命の頃、この自然法爾という考え方は、仏教界だけではなく、一般思想界でも共通理念の一つであったようで、いろいろな人がいろいろなところで語っています。

たとえば、**慈円**は、歴史の流れを、自然法爾で説明しようとしています。すなわち、『**愚管抄**』に、「上下の人の運命も、三世の時運も、法爾自然にうつりゆく」といい、**明恵**は、『**栂尾明恵上人遺訓**』によれば、「人は**阿留辺幾夜宇和**と云う七文字を持つべきなり。僧は僧のあるべき様、俗は俗のあるべき様なり」と、この自然法爾を「あるべきやうわ」という和語で表現しています。

親鸞は、『**自然法爾章**』で、「**自然**というは、**自**はおのずからとい

う、行者のはからいにあらず、**然**というはしからしむということばなり。しからしむというは行者のはからいにあらず、如来のちかいにてあるがゆえに**法爾**という」と説いています。つまり、自然法爾の心は、おのがはからいを捨てて、阿弥陀仏にすべてを任せきることであるというのです。

では、法然上人は、というと『**法然上人行状絵図**』巻二十一に「法爾の道理と云う事あり。ほのおは空にのぼり、水はくだりさまにながる。菓子の中に、すき物あり、あまき物あり。これらはみな法爾の道理なり。阿弥陀仏の本願は、名号をもて罪悪の衆生をみちびかんと、ちかい給いたれば、ただ一向に念仏だにも申せば、仏の来迎は法爾の道理にてうたがいなし」とおっしゃっています。

つまり、「炎は空に向かって燃え、水は低い方へと流れる。果物には酸っぱいものもあれば、甘いものもある。これは自然に具わった道理である。同じように、阿弥陀仏の本願は、念仏申す功徳によって罪深い人を導き救おうと約束なさっているものだから、ただひとえに念仏を申せば、この道理に従って、臨終の時には、阿弥陀仏がお迎えに来てくださることは、間違いないことである」とおっしゃっているのです。

これを、私は次のように解釈しています。

「自然には、人知では計り知れない法則というものがある。それを一言でいえば、すべての者を救い取らんという「阿弥陀仏の慈悲」である。小さなアリ一匹も、すべてを包み込む宇宙も、この大きな力によって動かされており、もちろん、私という自分も、この弥陀の慈悲によって生かされているのである。よって、命が果てるその時は、弥陀のお迎えを待ち、その御許に再び帰るということは、自然の道理である」と。

おのがはからいを捨て、あるがままに身を任せるという、この自然法爾は、時として、どうあがこうがどうにもならない、身の程を知るといった運命論的、あるいは厭世的にとらえがちな面があります。大切なことは、弥陀の意思の本質を見極めようとする態度と、その善意にかなう生き方の探求にあります。たとえば、病気になったら、悲嘆したり、恨むのではなく、あるがままそれを弥陀の善意と受け止め、その意思にかなう生き方を見い出すことが肝要です。

◎法然上人八百回大遠忌

4月27日、午前8時発、総勢43名にて、法然上人八百回大遠忌に行って参りました。愛知3組という組寺としては、7台のバスを連ねての団体参拝となりました。

途中、土山サービスエリアで休憩、平安神宮で記念撮影と参拝、そして、京料理「六盛」で昼食した後、ご本山永観堂禅林寺へ。

なにぶんスケジュールがきっちり決められていて、ご本山での記念撮影や阿弥陀堂の参拝もままならず、その点は少々心残りでしたが、皆様の応援をいただいて、副住職が、伽陀師という大役を無難に勤めることが出来、ホッとしております。

帰りにはあいにく雨天となりましたが、八百回大遠忌に巡り会えたことに、ただ感謝!!

浄土宗西山禅林寺派愛知3組　2011年4月27日　於 平安神宮

雑記

▼花のとう

熱田神宮で、5月8日、「花のとう」と呼ばれる神事が行われます。花の頭・花の塔・花の撓・花堂などと書かれ、また「おためし」とか「五月八日」などとも呼ばれている作占いの行事であります。

私が子供の頃、境内の参道に、野菜の苗や植木の市、瀬戸物市や竹製品の市が、5月の下旬頃まで、ずらっと並んだものですが、近年、めっきり寂しくなってしまいました。花のとうは、尾張三河地区、各所で以前はあったようですが、事情は同様のようであります。

▼猫と鳩

以前ご紹介した三毛のオスの外猫が、鳩をつかまえてきて、食べてしまいました。頼りなさそうな顔をしていますが、見かけによらぬのは、人も猫も同じ？

◆茉莉花(ジャスミン)や浪漫漂(ロマンただよ)ふ異空間　沐魚